

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1490700067	事業の開始年月日	平成21年6月1日
		指定年月日	平成21年6月1日
法人名	大信産業株式会社		
事業所名	グループホーム みのり 丸ちゃん・山ちゃん		
所在地	(〒235-0001) 横浜市磯子区丸山1丁目16-5		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和5年4月13日	評価結果 市町村受理日	令和5年8月1日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none"> ・グループホームは「おいしく食べて心も体も健康に」を開設当初から柱として、新鮮でおいしい食事を提供できるようにと毎日取り組んでいます。 ・季節の行事、誕生会、ドライブ等を行い、単調な生活にならないように、スタッフ同士で企画を立て実行しています。 ・医療機関と連携し、24時間体制で体調変化の早期発見に留意し、速やかな対応を心がけ、重度化を防いでいます。また、住み慣れたグループホームで最期を過ごしたいと希望なさった方には、十分な話し合いを持ち、医師、訪問看護師のもとで看取り介護を支援しています。 ・ご利用者様の尊厳を第一に考え、それぞれの思いに寄り添い、個性を大切にされた支援をこころがけ、実践しています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	令和5年4月26日	評価機関 評価決定日	令和5年7月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>【事業所の概要】 当事業所は、JR京浜東北根岸線磯子駅よりバスで10分、最寄りのバス停から徒歩5分、または横浜市営地下鉄ブルーライン蒔田駅より徒歩で20分ほどの住宅地に位置している。3階建ての2、3階部分がグループホームで、1階は同一法人の小規模多機能型居宅介護事業所が併設されている。コロナ禍には、道路を挟んで斜め向かいにあるスーパーマーケットへ利用者と一緒にお買い物に出掛ける事を自粛していたが、近々再開する予定にしている。</p> <p>【利用者の主訴や思いを大切にされたケアの実践】 利用者の主訴を最優先にして、汲み取った思いの実現に向けたケアプランを立案している。毎月のフロアミーティングで行うカンファレンスは、職員全員の参加を原則として、全職員が利用者の1か月の状況や変化を共有し、次のステップに向けたケアの課題などを話し合い、ケアの統一を図っている。利用者の体調や状態変化により主訴も変わってくることで、また訴えがない場合にも利用者一人ひとりの気持ちを大切に考えていることから、ケアカンファレンスでのケアの統一に向けた意見交換や話し合いを重視している。また日々の状態は「ケース記録」や「申し送りノート」に記載して共有し、利用者に変化があった際には、「モニタリング記録表」に詳細に記録している。またケアマネジャーが利用者へ寄り添いながら頻りに話をする機会を作り、利用者の主訴や思いの汲み取りに努め、最適なケアプランの作成に繋げている。</p> <p>【運営方針である「医食同源が基本」の実現】 開設時から法人の運営方針である「医食同源が基本」の実現に向けて、調理専任の職員を雇用して、献立から食材の調達、調理までを担い、1階の小規模多機能型居宅介護事業所の厨房で調理した手作りの品を提供している。季節の旬の食材を使ったバラエティ豊かな食事は、食器や盛り付けなど見た目にもこだわっている。正月のおせち料理、雑祭、敬老会、クリスマスといった行事の特別食もすべて手作りでしている。時にはバイキング形式で食事を提供したり、テイクアウトを利用したり、利用者も一緒におやつを手作りする等、事業所は、豊かな食生活を実現させて、利用者から好評を得ている。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	みのり丸ちゃんちゃん
ユニット名	丸ちゃん

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

事業所名	みのり丸ちゃん山ちゃん
ユニット名	山ちゃん

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の食生活の充実ともう一つの理念である「認め合って、支え合って、その人らしさを大切に」をスタッフで共有し、職員間の連携をはかり、ご利用者様の個性を尊重し、ケアにつなげています。	開設時に作成した法人の理念の実現に向け、行動指針に沿って職員一人ひとりが常にチームとしてケアの統一を図り、支援している。また開設時からの運営方針である「医食同源が基本」の「食」は、利用者の楽しみや喜び、癒しになっており、事業所は、食の支援は大切であると考えている。日々、おいしい食事を提供し、利用者の心身の健康を維持に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの影響で、行事が中止になっている。	地域の一員として開所時から町内会に加入をしている。敬老の日には老人会からお祝いの品が届いている。新型コロナの影響で町内会行事が今年度までは中断していた。令和5年度からは盆踊り等が再開する予定との情報があり、利用者も参加を楽しみにしている。利用者の地域商店での買い物等も順次再開する予定にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルスの影響でまったくできていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスの影響で書面による開催となっていたが、2023年3月から、通常通りの開催を行わない、活動状況の報告と今後に向けてのアドバイスをいただいている。	令和5年3月から運営推進会議は、対面での開催を再開している。コロナ禍前は利用者、家族も参加をしていたが、今のところ参加を見合わせている。次年度の7月以降から様子を見て、可能な利用者には会議に参加し、行事について話してもらう予定にしている。書面開催時の報告書は、家族には送付していない。	地域密着型事業所として、利用者や家族から、多様な意見を集める事が重要です。次年度から再度利用者や家族の参加を呼びかけ、集まった意見を運営に反映させる事を期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	折に触れ、電話連絡等で、地域全体の状況や近隣の町内会の情報等を伺って、ご指導をいただいています。空室情報を共有し、新入居に繋げています。	新型コロナの感染者が出た際は、区の保健所と密に連絡を取り合い対応に当たった。市や区からは、抗原検査キットやガウン、N95マスク等の提供があった。生活保護費を受給している方には区的生活支援課職員と電話でやり取りをしながら連携をして支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業員への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないと決められていますが、認知症の進行でやむをえず、検討しなければならぬ時は身体拘束（施錠、サイドレール）の説明と同意を家族からいただき、必要な時、必要でない時を判断し、対応できるようにミーティングで話し合いをします。	「身体拘束適正化に関する指針」を策定して「身体拘束適正化委員会」を3か月ごとにフロアミーティングの中で開催し、スピーチロックや眠剤の使用等を取り上げて、事例検討している。委員会は「身体拘束は虐待に繋がる」という理解のもと同時開催にしている。事業所で新型コロナの感染者が出た時期を除き、事業所内は利用者がエレベーターで自由に往来できる環境である。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新型コロナウイルスの影響で、虐待に関する研修が行えなかったが、毎月のフロアミーティングの中で、虐待防止について話し合っています。施設内でも何気ない言動が虐待にならないか、お互いに注意をはらっています。	「身体拘束適正化」や「虐待防止」の研修の中で、不適切ケアの自己点検チェック表を使って、セルフチェックを実施している。在籍年数が長い職員が多く勤務していることから、職員間の風通しもよく、互いに、注意をし合える関係が築かれている事が、不適切ケアの防止に繋がっている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は、成年後見制度を利用している方がいらっしゃらないが、必要とおもわれる方、関心をもたれた方には、制度の説明、内容等をお伝えしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約書を声にだして読みながら、ひとつひとつ説明をし、納得いただいています。契約締結後も家族にホームでの様子を伝えて、話しやすい関係ができるようにつとめています。		

10	7	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご意見ボックスを設置して、家族や関係者から頂いた意見や要望をミーティングにあげて、意見を出し合い、改善すべき点は直していき、記録に残します。</p>	<p>家族の意見や要望は、利用者の状況報告を兼ねてケアマネジャーが頻繁に電話連絡をした際に尋ねている。行事の様子の写真を郵送している。家族が意見や要望を言いやすい関係が出来ている為、家族からは直接話を聞く事が多く、ご意見ボックスに意見が入る事はない。管理者は、令和5年度から家族に行事の参加を呼びかけ、家族同士が話をしたり、意見交換ができる場を持ちたいと考えている。事業所の方針としてマイナスの部分も含め、全てオープンにしていく意向があり、家族が少しでも疑問に感じた事は何でも話して欲しいと家族に伝えている。</p>	
----	---	--	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝夕の申し送りや業務の合間で意見、情報の交換を行い、月に1回フロアミーティングで議題にあげて皆で検討します。	毎月のフロアミーティングは、非常勤、夜勤専従職員も含め、全職員が参加して16時～17時30分に開催している。会議は研修や勉強会等のほか、利用者の現状や課題を確認し、カンファレンスで話し合い、ケアの統一に向け意見交換をする場になっている。やむを得ず欠席する場合は、事前に意見や要望を管理者が聞いている。職員の提案で、利用者にも少しもお花見気分や外食気分を味わってもらうためにお弁当を購入し、事業所の手作りのお惣菜等も用意して、ランチバイキングを楽しんだ。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きがいのある職場を目指して努力や実績が給与、役職等に反映できるようにしています。	年2回の個人面談で、現状の確認と将来の希望等を話し合い、人事考課に繋げている。研修は全員が参加をして、報告書を提出してもらっている。研修の取り組み状況や理解度なども評価対象になる。産休、介護休暇等の制度に加え、正社員には次年度6月から2日間のリフレッシュ休暇制度が導入される。全職員が有休を取りやすいように配慮している。一度離職した職員3名が再雇用される等、働きやすい環境が整っている。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員のシフトを作る時は個々の希望を考慮しながら組み、働きやすい環境にして、スキルアップのための研修は積極的に参加できるようにバックアップしています。	法人のキャリアパス制度があり、資格取得の支援をしている。職員の8割が介護福祉士を取得している。認知症介護実務者研修、認知症介護実践者研修、リーダー研修については受講補助があり、研修参加時は勤務扱いになる。法人主催の研修は地域の町内会館を借りて開催し、研修当日に利用者の対応に当たっていない職員が勤務扱いで参加をしている。	

14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	新型コロナウイルスの影響で出来ていない。		
----	--	----------------------	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しくいらした場所が安心できる所だと思っただけのように、お声かけを多くし、お話をじっくりと伺い不安な要素を取り除く様にしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が納得して入居を決められる様に、迷っていることや、不安なことが解消されるように、話し合いの機会を設けたり電話で連絡を取り合ったりして信頼関係の構築に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日常生活状況を伺い、何が必要とされているか見極め、情報収集に努め、ケアの方針を決めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれの能力に応じて、できる事を大切にし、ご利用者様と職員が共に支え合う関係が築けるようにしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の希望、要望を伺ったうえで、ご利用者様とご家族の良い繋がりが保てる様に、季節の行事、運営推進会議等へ参加していただき、ご家族と職員が協力してご利用者様を支えています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスのために面会は出来なかったが、電話や手紙でやりとりが出来るように支援している。	入居が長くなるにつれ毎週顔を合わせる往診医や訪問看護師、理美容師などが馴染みになっている。小規模多機能型居宅介護事業所から入居した方は、階下の小規模多機能型居宅介護事業所の職員と馴染みの関係になっている。以前からおしゃれの好きな方はアクセサリーを身に着け、眉を自分で描く等お化粧をしている。家族にお願いをし、時折新しい衣類を購入したり、管理者が白髪染めで髪をピンク色に染めてあげたりしている。家事ができる方には包丁でみそ汁の具を切ってもらったり、煮物の味付けをしてもらっている。新聞やテレビガイド等の雑誌の個別購読、希望者には、風呂上りにはノンアルコールビール、起床時や食後にはコーヒーを提供する等の生活習慣の支援をしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の生活の中で役割分担を決めたり、時にはひとつのことに皆でかかわったりしながら、よりよい関係性を築くようにしています。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方、他施設へ移られた方のその後の様子をご家族から知らせて頂いたり、移られた入院先や施設との情報交換もおこなっています。			

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご利用者の思いや意向を伺い、出来る限りこれに沿える様に努め、介護計画書に記載、全職員が把握できるようにしている。また、思いや意向の表明が困難な場合は、日常の様子やこれまでの言動等から類推し思いや意向をくみとって検討、把握を行っています。	職員は日頃から、居室で一緒に衣類を整理する時や入浴時等の1対1になる機会を大切に、できる限り利用者の思いに耳を傾け、本音を引き出すようにしている。またケアマネジャーが頻りに利用者と話をして、日々の会話の様子から詳細なアセスメントやモニタリングを行い、利用者の思いを優先した支援をしている。気分が良いと歌い出す方に「うるさい」「煩わしい」と怒りを口に出す方もいるが、職員同士が、阿吽の呼吸で周囲に配慮しながら連携してケアにあたり、それぞれの利用者の思いに寄り添うように心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人ファイルをいつでも手に取れる様、スタッフルームに保管し、全職員がご利用者の生活歴、生活環境を把握し、日々のケアに活かし、其々の個性に合った対応を行い、尊厳を大切にケアに繋がっています。特に新入居時には、これまでの暮らしを把握する事により、ご利用様が新しい環境に慣れる一助となる様に努め、会話を楽しむ糸口としても大切にしています。		

25		<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>朝夕の申し送り、申し送り帳、ミーティング等で、一日の様子、ADL、新しい発見、利用者さまのさりげない言葉を、記録に残し職員全員が共有・把握出来る様に努めています。</p>		
26	13	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>利用者さま、ご家族の思いや意向を伺い、現状にそくした暮らし、ケアの方向を把握し、医療職等の見解を取り入れ介護計画を作成し、日々個人記録にも載せ、ケアに反映させる様にし、モニタリングは3か月/1回を基本として行っています。</p>	<p>ケアプランは利用者の主訴を最優先にしている。初回のケアプランは1か月で見直し、その後は3か月毎にモニタリングをして見直しをしている。通常は短期目標3か月、長期目標6ヶ月にしているが、本人の主訴は短期間であってもその表現能力や体調変化とともに変わることが多いため、日常の様子等に変化があった際は、ケース記録以外に「モニタリング記録表」に詳細に記録している。ケアマネジャーが「業務日誌」や「申し送り」を参考にし、日ごろから小まめに利用者の様子を見ながら、会話をする機会を持ち、モニタリングに反映させている。また毎月、職員全員が参加をするカンファレンスで利用者全員の状態を話し合い、ケアの統一を図っている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>介護計画が分かり易く記載された個別記録に、日々の様子や行ったケアの実践・結果等を記入し、職員間の情報共有を行い、ケアや介護計画の見直しに役立てています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人に限らず、他施設との交流、連携をはかり、多様化するニーズにおこたえできるようにしています。※他施設との交流は、新型コロナウイルスの影響で制限あり。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスの影響、ご家族の高齢化もあり、実施できていない。		
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の通院を希望なさる方には継続して受診できるように協力し、受診時の状況、処方薬をきちんと把握し、ご利用者様の状態の情報提供をおこなっています。	3か所の協力医療機関の月2回の訪問診療を利用者全員が受診している。その内2か所は内科、1か所は内科と精神科を受診できる。その他の外部医療機関の受診は家族対応としているが、職員が対応する場合もある。受診結果は家族から聞き取っているが、直接病院に問い合わせる事もある。訪問看護師が週1回来所し、利用者の健康管理をしている。訪問歯科医は治療が必要な方と契約を交わし、来所している。日常の口腔ケアは歯科医の指導を受けた職員が行っている。訪問マッサージを利用している方もいる。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員と訪問看護師の信頼関係ができており、普段の生活の中での小さな変化や気づきを伝えて迅速な対応、指示を受けています。		

32	<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院となった場合は入院先の主治医と連携をとり、時には直接お会いして退院後の生活が安心して送れる様に、指導、助言をいただいています。</p>		
----	--	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化に関する施設の方針をお話し、段階を経て、ご家族、医師、看護師で話し合いをし、同意が得られたときは看取り介護を行えるようにしています。	入居時に「看取り介護における対応方針」で事業所の方針や、終末期の対応の条件を説明している。医師が終末期と判断した時点で、再度家族に看取り対応の意思確認をして、同意を得た場合に「看取り介護」の同意書を取り交わしている。今年度2名の方の看取りを行った。看取り期にも利用者が孤独を感じないようにできる限り、フロアで過ごす時間を設けたり、家族にも毎日面会に来てもらい、最期にも立ち会ってもらっている。看取り後はケアの振り返りとともに、利用者各々に説明をしてお別れをしてもらっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム開設からの職員もいて、ご利用様の急変や事故発生時の対応には経験を積んできていますが、今後もミーティングや研修を通して実践力を身に付け、経験の浅いスタッフに指導ができるようにしていきます。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	新型コロナウイルスのため、実施できていなかったが、2023年3月に夜間想定避難訓練を行った。災害時に、ご利用様が安全に避難できるように訓練している。	今年度はコロナの影響もあり、日中想定避難訓練の実施1回のみとなっている。訓練は当日まで火災の発生場所や時間等も伝えず、非常ベルが鳴った7分間で職員がどれだけ率先して動けるかを体験してもらい、管理者やリーダー不在の際の対応訓練になった。地震対策の家具の転倒防止策や電気製品等の飛び出し防止策は講じていない。BCPの策定をしており、今後、実際の運用に向けた検討を予定している。	運営規程に定められている夜間想定を含む火災の避難訓練を年2回実施することを期待します。地震などの災害が起きた際に、被害を最小限にするための減災に向けた取組等や事業所内の再点検などを期待します。また地域の連携等を踏まえたBCPの実際の運用に向けたシミュレーションを行う事を期待します。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様、それぞれのプライバシー、人格を尊重し、心のこもった丁寧な声掛けを行い、入浴や排泄の際は、ご本人の意思を大切にして支援を行っています。	職員が利用者の居室に入室する際は必ず理由を伝え、入室する等、利用者の尊厳やプライバシーに配慮している。トイレ誘導の声掛けは、周囲に聞こえないように心掛け、排泄チェック表には利用者名ではなく部屋番号を記載している。個人情報を含む書類の施錠管理やパソコンのパスワード管理等に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の気持ちに寄り添い、その思いや希望を受け止め、ご自身に物事を決めていただけるようにしています。また、ご自身の思いや希望を表しにくい場合は、日常の言動から職員が推測しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間、日中の活動時間はだいたい決めてありますが、参加は本人の意思で決め、その日の体調やペースに合わせて生活できるようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的に服装はご本人に好きなものを選んでいただき、洗濯はこまめにし、整髪、髭剃り等常に、清潔、整容を心がけています。		

40	18	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>美味しい食事を皆で楽しくできるように、それぞれの咀嚼する力に合わせて、食材に切れ目を入れたり、刻みにする等工夫し、配膳、盛り付け、食器の片づけを職員と一緒にし、手際の良さを発揮されています。</p>	<p>調理専任の職員が献立から食材購入、調理までを担っている。開所以来「食」にこだわり、利用者の元気の源はおいしく食べられることが基本として季節ごとに旬の食材を取り入れ、バラエティー豊かなメニューの「食」を提供している。主菜、副菜は1階の厨房で作っているが、ご飯や汁物、卵料理は各ユニットの職員が作り、利用者はできる事を手伝って、出来立てを提供している。お節料理は蒲鉾、伊達巻以外は全て手作りしている。普段の食事にも海老しんじょうなどの手の込んだ物を提供して、利用者からは好評を得ている。誕生日等にはケーキとお寿司をテイクアウトしてお祝いしている。時にはバイキング形式で食事を提供したり、利用者も一緒に好みのおやつを作ったりする等、食事を楽しむ工夫をしている。</p>	
----	----	---	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回の食事量を必ず記録に残し、食が進まない方には好きなものを食事時間以外に召し上がっていただいたり、水分摂取が少ない方には好みの飲み物をすすめた上で、栄養・水分確保が不足する場合は医師、看護師に相談します。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、おひとりずつに合わせた口腔ケアを行い、必要な方は、訪問歯科の往診を依頼し、治療や助言をいただいています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターン、習慣を職員が把握し、タイミングを見計らって誘導をし、トイレでの排泄を第一に考え、清潔に過ごしていただくように支援をしています。	トイレ誘導不要で、布パンツを使用して自立でトイレでの排泄ができる方が3名いる。その他の方はそれぞれの状況に合わせてリハビリパンツを使用したり、リハビリパンツにパッドを併用している。トイレ誘導は排泄チェック表で確認をしながら無理のないように誘導している。夜間は睡眠を優先しているが、パッドを交換したり、起きて来た時にトイレ誘導する事もある。夜間はおむつを使用している介護度が高い方にも、日中は2名介助でトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、体操で体を動かし、十時のお茶の際は、ご本人の好みの飲み物を飲んでいただき、排泄表で排便の有無を確認し、下剤を処方されている方は服薬していただいています。		

45	20	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>原則として週2回の入浴を行い、体調、身体状況に合わせて、シャワー浴をとりいれたりし、入浴を楽しんでいただけるように工夫しています。</p>	<p>入浴は週2回、午前と午後に支援しているが、失禁などの状況に応じて、別途対応している。浴槽の湯はかけ流しにして、清潔を保つようにしている。立位を取りにくい方は2名介助で入浴をしたり、無理のないようにシャワー浴や清拭にする事もある。同性介助の希望への配慮や、男性利用者の問題行動によって男性職員が対応する事もある。「身体が痛い」という理由から入浴を好まない方には「痛くないようにするから大丈夫」等、声掛けを工夫し、出来る限り入浴を短時間にして対応している。柚子湯や菖蒲湯で季節感を楽しんでもらっている。ヒートショック対策として、浴室内暖房や脱衣場のエアコンを備えている。</p>	
----	----	---	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間、起床時間は特にきめず、ご利用者様のリズムに合わせ、必要な方には、昼寝も取り入れています。リネンは清潔なものを使用し、部屋の温度、湿度、照明にも気を配っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬の目的、用法、用量を薬情報提供書で確認し、把握し、服薬時には、ご本人に確認していただき、職員二人体制で、服薬チェック表を用い、目視して服薬していただいています。薬の変更があった時は申し送り帳に記載し、職員全員が把握できる様にしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様の好みを把握し、それぞれが楽しく過ごせる様に、レクリエーション、外出支援を行い、役割分担を持つことによって張り合いのある暮らしが出来る様にしています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は、新型コロナウイルスの影響で、対策をきちんととったドライブ（車から外には下りない）を行っています。ご家族、地域の方とも、面会禁止の為、協力しながらの外出支援はできていません。	3月から面会や外出を再開したが、これまでもお花見や、紅葉見物を兼ねたドライブレクを、車から降りずに実施している。4月にはドライブレクで山下公園まで出かけた。その他にもコロナの感染状況が沈静化した時には、利用者も一緒に行きつけのパン屋にドライブがてら出かけている。マスクを着用し、近隣の公園に散歩に出かけている。	

50	<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご利用様は金銭管理を行っていないが、昼食会などのレクリエーションでの好みの食べ物購入、衣類の購入等に使っている。</p>		
----	---	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の声が聞きたくなった時や、電話での連絡が必要な時は、いつでも利用できるようにしています。FAXで簡単な文を書いて送る方もいらっしゃいます。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適な共同空間で、ご利用者様が安心して居心地よく過ごせる様に工夫し、各部屋の掃除をスタッフと一緒に、季節に合わせた飾り等をみんなで力を合わせて作り、食堂やリビングに飾っています。	フロアには、食堂に続いてダイニングが配置されている。利用者は自由に居心地の良い場所で過ごしている。フロアの壁にはちぎり絵や貼り絵を飾り、季節感を演出している。共有空間の清掃の際は、できる限り利用者も手伝っている。空調の清掃は専門業者が行っている。空気清浄機と加湿器を設置し、時間を決めた換気や手すり等のアルコール消毒で感染症対策を施している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の好きな場所でご自身のペースで過ごしたり、時には皆さんと談話して楽しめる様に環境を整え、職員が声掛けを行い、ご本人の希望に応じた場所を勧められる様に工夫しています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、ご利用者様に馴染みの深い物、使い慣れた家具、飾っておきたい物等をご持参いただき、好みに合った物の中で安心して過ごしていただけるようにしています。	居室にはベッド、エアコン、クローゼット、照明、防災カーテンを備えている。利用者は、自宅から持ち込んだ好みの家具や生活用品を設置している。入居後、ADLの変化に応じて、レイアウトを変えたりしている。家族の写真や自分で書いた般若心経の掛け軸を飾っている方、短歌の本を置いている方もいる。	

55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各部屋のドアには見えやすいネームプレートを掛け、トイレ、浴室等はわかりやすいように表示して迷わず移動できるようにし、ご利用者様の力を活かしています。		
----	--	---	--	--	--

別添 3

目 標 達 成 計 画

事業所名 GHみのり丸ちゃん・山ちゃん

作成日 2023年 7月 31日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	3	運営推進会議を活かした取り組み 利用者様、ご家族が参加できていない。	ご利用者様、ご家族に参加して頂く。	運営推進会議での内容を知ってもらい意見を頂き運営に反映させる。	12ヵ月
2	16	災害対策	年2回実施	火災訓練、地震、水害を含めた訓練をする。	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。